

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和4年1月18日

## 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○ で囲むこと	広域連携DMO・ <span style="border: 1px solid black;">地域連携DMO</span> ・地域DMO	
観光地域づくり法人 の名称	株式会社おおすみ観光未来会議	
マーケティング・マネ ジメント対象とする 区域	区域を構成する地方公共団体名 鹿児島県鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、 南大隅町、肝付町	
所在地	鹿児島県鹿屋市	
設立時期	2016年4月1日 日本版DMO法人準備組織「おおすみ観光未来会議」設立 2018年8月1日 株式会社おおすみ観光未来会議として法人化	
職員数	6人【常勤6人（プロパー職員3人・派遣1人・パート2人）】	
代表者（トップ人 材：法人の取組につ いて対外的に最終的 に責任を負う者）	代表取締役 山下 建一	・2019年度から当社取締役として会社経営に尽力 ・鹿屋市で旅行代理店を経営しており、また地域の 観光協会会長として、大隅地域の特性にも精通 し、地域内外に広い人脈を有している。
法人業務執行責任者 現場の業務執行の責 任者	事業執行責任者 山下 建一 (代表取締役兼務)	・当エリアでの旅行代理店経営の知識と経験を生か した業務判断と地域の観光協会会長としての立 場から、地場のステークホルダーのまとめ役を担 う。
各部総括 ・総務部 ・企画戦略部 ・事業推進部 ・企画営業部	チーフディレクター 兼総務課長 原 添 耕 作	・行政(鹿児島県鹿屋市)からの派遣職員。 ・観光行政の経験を生かし、関係市町(4市5町) との連携を図りながら、各事業部の総括を担う。
総務部 ・財務責任者(CFO: チーフ・フィナン シャル・オフィサー ー) ・財務・会計・庶務	CFO チーフディレクター 兼総務課長 原 添 耕 作 (兼務)	・行政(鹿児島県鹿屋市)での会計事務の経験を生か し、財務・会計・庶務を担当するほか、国や県、 大隅地域の行政や、観光協会等の関係団体とのパ イプ役としての役割を担う。
企画戦略部 ・データ収集・分析 等の専門人材 (CMO:チーフ・マ ーケティング・オ フィサー	CMO ディレクター 堂 地 恵利子 (専従)	・地域情報誌発行会社での経験を生かし、マーケ ティングや地域の観光戦略策定、ブランディングに 能力を発揮することが期待される。
事業推進部 ・プロモーション、 旅行商品の造成等	ディレクター 丸 峯 汐 里	・旅行代理店や観光バス会社での経験を生かし、観 光素材の掘り起こし・磨き上げ、情報発信につい て能力を発揮することが期待される。

(別添) 様式 1

<p>企画営業部 ・団体旅行の誘客セ ールスや民泊受入 のコーディネート 業務</p>	<p>ディレクター 白石 春 茄</p>	<p>・旅行代理店やホテルの業務経験を生かした、都市圏エージェントに対しての営業活動を展開し、大隅エリアへの民泊を活用した教育旅行等の誘致を実施する。</p>
<p>連携する地方公共団 体の担当部署名及び 役割</p>	<p>鹿児島県鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町（4市5町）</p> <p>○企画担当課 ・連携する地方公共団体の総括 ・地域資源を活用した観光地域づくり事業の推進に関する担当部署の調整</p> <p>○観光担当課 ・マーケティング ・地域資源を活用した観光地域づくり事業の推進。 事業推進にあたっては、企画担当課と調整し、関係部署との連携を行う。</p>	
<p>連携する事業者名及 び役割</p>	<p>①株 主 ・株主は 41 者(民間事業者 32 者、地方公共団体 9 市町)。 民間事業者の株主は、宿泊・交通事業者や商工業者、金融機関等、地域の幅広い産業分野の事業者が出資している。 ・株式会社おおすみ観光未来会議の経営に関する最高決定機関としての役割を果たしている。</p> <p>②民間事業者 株式会社おおすみ観光未来会議は会員組織の会員を中心とする民間事業者の経済活動を支援することにより地域の活性化を図るとともに、おもてなし体制を整え、来訪者満足度の向上等を図る。</p> <p>○株式会社おおすみ観光未来会議会員組織 ・会員は、宿泊・交通事業者、商工業者、地域住民等であり、令和3年12月末現在で85者が参画 ・現在も会員を募集中であり、今後も会員数を増やす予定である。 ・大隅地域の地域課題を共有し、解決手法について協議し、大隅地域の課題解決に資する事業等を提案し、戦略や事業に反映する。 ・大隅地域の観光戦略に基づき、各種事業の推進に協力する。</p> <p>○地域内事業者等 ・各行政単位の観光協会等 各行政単位の観光協会等と株式会社おおすみ観光未来会議は、機能や役割を分担。各行政単位の観光協会等は来訪者へのおもてなし体制を整え来訪者満足度の向上等を図るための策を講じ(BtoC)、株式会社おおすみ観光未来会議は、地域内人材育成やマーケティングデータの提供、スケールメリットを活用したプロモーション等で業務支援を図る(BtoB)。また、各市町の観光地を結んだツアー造成や教育旅行受入など、地域の実情に応じた着地型旅行商品の造成・販売やランドオペレーター業務などを実施する。 ・金融機関 観光地経営に基づく組織運営の助言、地域内産業成長のための支援等を行っている。</p>	
<p>官民・産業間・地域間 との持続可能な連携</p>	<p>【該当する登録要件】②</p>	

(別添) 様式 1

<p>を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>○ 株式会社おおすみ観光未来会議会員組織における以下の会議により、会員の連携や大隅地域の課題解決のためのプロジェクトに関する協議、大隅地域の観光戦略の共有、その他の情報共有等を図る。</p> <p>① エリア会議 大隅地域を3エリアに分け、エリア幹事を中心に地域課題の共有や課題解決の手法等を協議する。</p> <p>② エリア幹事会議 各エリア会議で協議した地域課題や課題解決の手法等について、地域全体で共有し、地域課題解決策の事業化の可否等について協議する。</p> <p>○ 大隅観光戦略会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大隅地域の観光戦略の協議、決定 大隅地域の行政、株式会社おおすみ観光未来会議会員組織エリア幹事、株式会社おおすみ観光未来会議が出席し、大隅地域の観光戦略の協議、決定を行う。</li> <li>・ 観光戦略の共有、戦略に基づく各種の取組み 大隅観光戦略会議において決定した観光戦略を各市町や会員組織会員等に広く共有し、地域全体で戦略に基づく各種事業を展開する。</li> <li>・ 戦略の見直し KPIの達成率や、観光戦略に基づく事業実績等についてチェックを行い、課題等をフィードバックし、観光戦略の見直しを行うことによりPDCAサイクルを循環させる。</li> </ul>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成市町の広報誌や各種媒体を活用し、観光地域づくりの取組について広報周知を行う。</li> <li>・ 各種事業の実施にあたり、地域住民に参画していただくことにより、おもてなしの心の醸成や地域への自信と誇り、愛着を持っていただく機会を創出する。</li> </ul>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>○ 1994年度から 大隅地域4市5町が大隅広域観光開発推進会議を設立し、大隅地域の広域観光の推進や特産品振興等の事業を実施</p> <p>○ 2014年度から 大隅広域観光関連団体連絡協議会(仮称)準備会を設置し、官民が一体となった観光施策を推進し、将来的には民間主導の自立した組織設立を目指すための協議等を行った。</p> <p>○ 2016年度から 日本版DMO組織の設立に向けた準備組織「おおすみ観光未来会議」を設立。専門人材の投入、「大隅広域観光の基本認識」の策定、マーケティング調査・分析等を行うとともに、新組織設立に向けた取組みを行った。</p> <p>○ 2018年8月1日 株式会社おおすみ観光未来会議の設立(法人化)</p> <p>○ 2019年3月29日 登録DMO(地域連携DMO)登録</p>

事業	実施概要
<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>【2019 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「国内観光活性化フォーラム in くまもと」PR 活動 来場者（観光関係者）へのガイドブック配布等による観光 PR 活動</li> <li>○サイクルチューバー招へい・情報発信 大隅地域のサイクルコース及び観光地を YouTubeTV や Instagram、Twitter で情報発信</li> <li>○大隅半島食の魅力発信事業（大阪市） 観光物産展、大隅食材を活用したレストランフェア</li> </ul> <p>【2020 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○JR 観光列車「36 ぷらす 3」での物販及び観光 PR 会員商品の販売及び観光 PR 活動の実施</li> <li>○各種広報媒体を活用したプロモーションの実施 ラジオ・テレビ番組への情報提供や航空会社、観光関係事業者の広報媒体への情報提供等によるプロモーション活動の実施</li> <li>○関東地区での物販・PR 活動 新宿御苑での会員商品の販売及び観光 PR 活動の実施</li> </ul> <p>【2021 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各種広報媒体を活用したプロモーションの実施 ラジオ・テレビ番組、地元新聞や観光関係事業者の広報媒体への情報提供等、SNS の積極的な活用によるプロモーション活動の実施</li> <li>○各イベントでの物販・PR 活動 地域内イベントでの物販・PR 活動に加え、博多駅やプロ野球キャンプ時での PR 活動等を予定（2022. 1～2 月）している。</li> </ul>
<p>受入環境の整備</p>	<p>【2018 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○おおすみ食とマルシェの祭典 in たからべ森の学校 大隅の良質で豊かな食を通じ、大隅地域の地域資源を広く情報発信するとともに、「大隅を観光する」きっかけをつくることにより観光を活用した地域づくりに生かす。 また、“大隅ならではの食”の提供に向けた取組み、イベント運営への地域住民の参画によるおもてなしの心の醸成や地域への愛着、誇りを再確認することを目指し事業を実施。</li> </ul> <p>【2019 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大隅地域の資源を活かした観光商品の造成及び販売体制の構築 鹿児島～大阪を結ぶフェリーさんふらわあで販売する大隅のお土産セットの造成・販売</li> </ul> <p>【2020 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○GOTO トラベル第三者機関への登録</li> </ul>

	<p>第三者機関として登録することで地元宿泊業者の同事業利用者受入の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○おおすみお土産セットのネット販売構築 SNS を活用し、2019 年度に造成したおおすみお土産セットの販売を構築。</li> <li>○薩摩半島と大隅半島を結ぶ旅客不定期航路の開設 大隅半島への新たな交通手段として鹿児島市と鹿屋市を結ぶ旅客不定期航路の開設に関係行政及び民間団体等と共同で取り組んだ。</li> </ul> <p>【2021 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○サイクルツーリズムの拡大に向けた取組 自転車環境整備のため、エリア内へのサイクルスタンド等の設置やサイクルマップの作成を進めている。今後も県やシエルブルー鹿屋・鹿屋体育大学自転車競技部等とも連携を図り、国内サイクリストを中心に、国外サイクリスト誘致に向けた取組も行っていく。</li> <li>○アフターコロナに向けた各種研修会 SNS や Web サイトの活用スキルアップを図るための研修やホスピタリティ向上・ガイドスキルアップ研修を行い、地域内人材の育成に努めている。</li> </ul>
<p>観光資源の磨き上げ</p>	<p>【2019 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○おおすみ特別弁当の開発 豊かな大隅の食材のみを使用した特別弁当の開発</li> <li>○クルーズ船観光客誘致に向けた取組み 既存交通手段を利用すると往復 4 時間以上かかる本地域に滞在時間（約 5 時間）が短いクルーズ船観光客を誘引するため高速船を活用したトライアルツアーを実施。</li> </ul> <p>【2020 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高速船を活用したツアー造成 官民一体となって開設した不定期航路（高速船）を活用して、各市町の観光地を結んだ着地型ツアーを実施した。</li> <li>○「大隅の新しい旅行スタイル」戦略構築事業 大隅の観光を「人」に焦点をあてて「温かさ」を感じる旅行スタイルを構築する事業に取り組んだ。 体験メニューの商品化、FAM ツアーの実施、リモート観光の実証実験、成果発表会</li> </ul> <p>【2021 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大隅地域「体験・滞在型コンテンツ」レベルアップ事業 2020 年度に実施した「大隅の新しい旅行スタイル」戦略構築事業のレベルアップ事業に取り組んでいる。 在日外国人向けのコンテンツ調査（体験ツアー）や FAM ツアーを行い、体験型コンテンツメニューをまとめたガイドブックを作成する。</li> <li>○アドベンチャーツーリズムの構築 観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」を活用し、サイクリングを中心としたアドベンチャーツーリズムの商品化に取り組んでいる。</li> </ul>

(定量的な評価)

## ○大隅広域観光関連団体連絡協議会（仮称）準備会における官民協働事業実施実績

内 容	2014 年度	2015 年度
旅行会社訪問セールス	0 回	2 回
日本版DMO設立に係る先進地研修	0 回	1 回
日本版DMO設立に向けた官民合同協議	1 回	5 回

## ○大隅広域観光開発推進会議における実績

内 容	2013 年度	2014 年度
大隅観光ホームページ閲覧者数	0 件	53,024 件
大隅地域旅行商品支援事業採択件数	25 商品/14 社	21 商品/14 社
団体旅行への助成	2,804 人送客	1,574 人送客
「大隅食の新定番土産」認定品 (大隅地域の食材を活用したお土産品のブランド化)	94 品	80 品

## ○おおすみ観光未来会議における実績

## ・会員組織の活動

産業別 5 部会ごとに部会を開催し、日本版DMO設立に向けた情報共有や、会員発案プロジェクトの実現に向けた活動等を行った。

(会員数)

基準日	会員数
2016 年 5 月	82
2017 年度末	100
2018 年 7 月末	106

## ・大隅半島着地型体験プログラム「大隅手帖」

地域資源の発掘と磨き上げ、日本版DMOの設立に向けた地域の「稼ぐ力」の研究を行った。

年度	項目	実績等
2016	プログラム数	20 プログラム
	実施期間	2017 年 1 月 20 日～2017 年 2 月 26 日
	集客実績	148 人
2017	プログラム数	23 プログラム
	実施期間	夏 Ver : 2017 年 8 月 21 日～2017 年 10 月 7 日 冬 Ver : 2018 年 2 月 3 日～2018 年 3 月 1 日
	集客実績	111 人

## ・おおすみ食のEXPO、おおすみ食とマルシェの祭典

良質な食材の宝庫である大隅地域の魅力を発信するため、著名な料理関係者の監修による大隅の食材を使った料理を提供する食のイベント、大隅の食材の販路開拓等を目的とした商談会や、マルシェイベントを実施した。

- ・マーケティング調査・分析事業  
戦略策定、KPIの設定・検証、PDCAサイクルの確立等を行うために、大隅地域の実情に即したマーケティング調査を実施した。
- ・「大隅広域観光の基本認識」の策定  
大隅地域の観光地域づくりを戦略的に推進するため、理念、目的等の共有を図った。
- ・地域内人材育成  
大隅地域の歴史や、文化、産業等について学ぶ「おおすみ学校」の開校や、フォーラム等を実施し、地域内人材育成、大隅地域の観光地域づくりの機運醸成を図った。

○株式会社おおすみ観光未来会議における実績

- ・会員組織の活動  
大隅地域を3つのエリアに分け、会員同士の連携や、地域課題の共有、課題解決に向けたプロジェクト提案を促進し、観光による地域活性化を目指し活動する会員組織を設立。

(会員数)

基準日	会員数
2018年8月	47
2021年12月末	85

(別添) 様式 1

実施体制

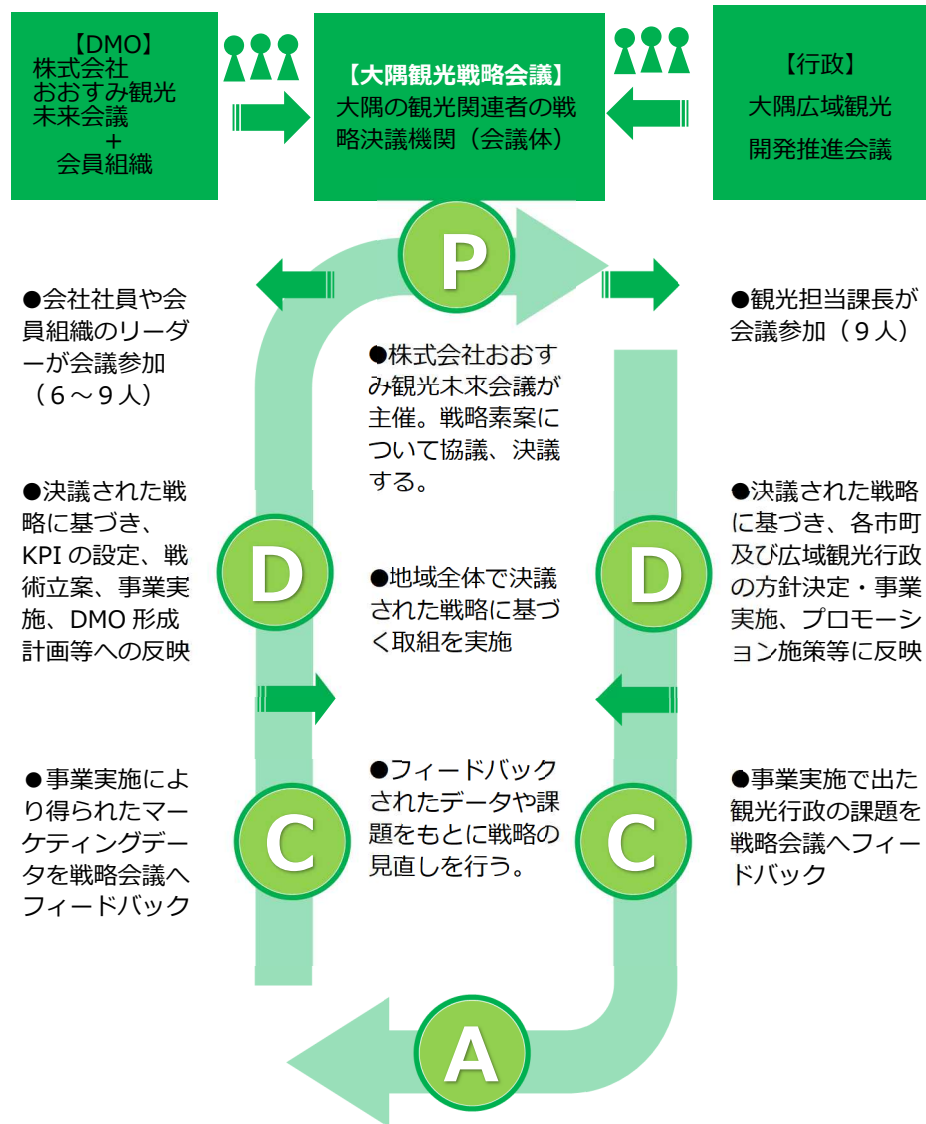
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。

(実施体制の概要)

株式会社おおすみ観光未来会議が主催する大隅観光戦略会議で大隅地域の観光戦略の合意形成を行い、地域全体で戦略に基づいた各種事業を展開する。

また、大隅観光戦略会議に各種事業の実績、KPIの達成率等をフィードバックすることで戦略の見直し、事業精度向上につなげることを目的としている。

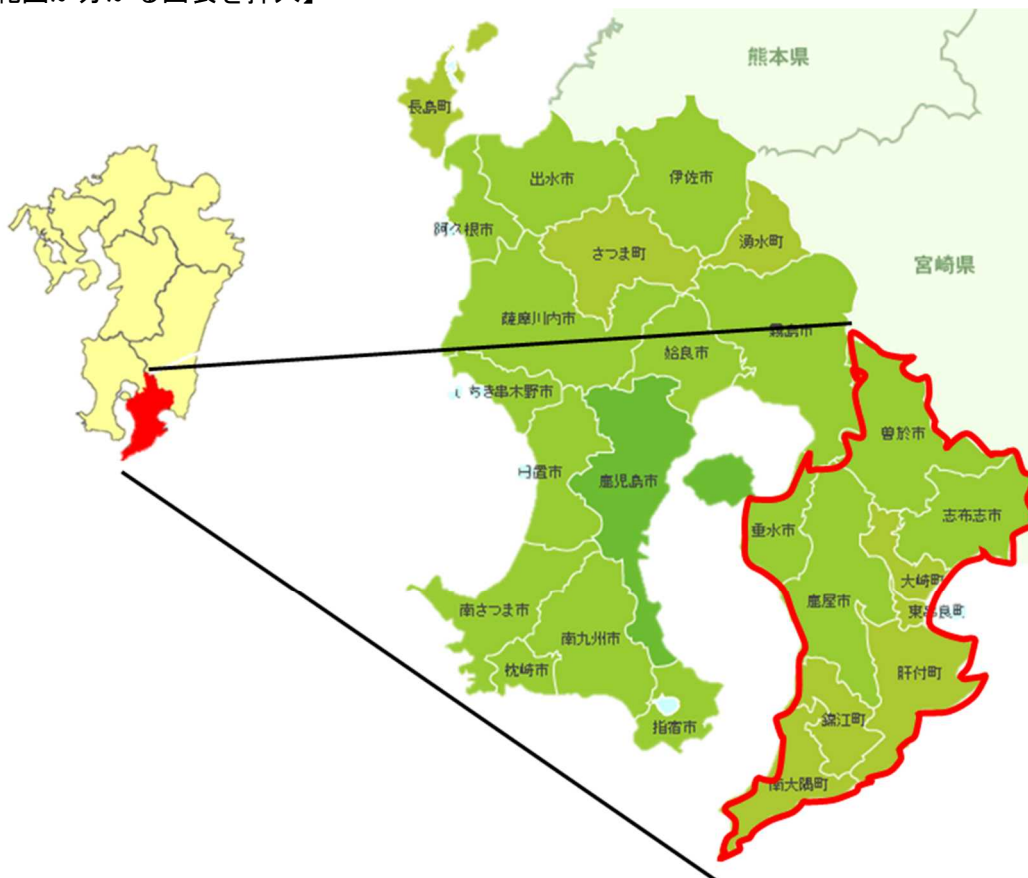
(実施体制図)





## 2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

- 1994 年度から、区域を構成する地方公共団体で大隅広域観光開発推進会議を設置し、「大隅はひとつ」という概念のもと、観光、特産品振興等の取組みを広域的に連携し進めている。
- また、2014 年度から、官民一体となった大隅広域観光関連団体連絡協議会（仮称）準備会を設置し、2018 年度の日本版 DM0 組織の設立に向けた準備組織「おおすみ観光未来会議」を設立し、協議を進めるとともに、官民一体となった観光プロモーション活動等を協働実施。2018 年 8 月 1 日に株式会社おおすみ観光未来会議を設立。
- 上記取組みの状況や産業連携、交通ネットワークの領域を勘案し、当該地域の区域設定が適切である。

【観光客の実態等】・・・鹿児島県観光統計より

年	延べ宿泊者数	延べ日帰り客数
2017	354,943 人	1,246,784 人
2018	362,292 人	1,215,187 人
2019	359,990 人	1,161,291 人
2020	234,456 人	1,049,801 人

(別添) 様式 1

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

エリア	市町名	主な観光施設等
北部 エリア	垂水市 曾於市 志布志市	<自然> ・猿ヶ城渓谷 ・垂水千本イチョウ園 ・高峠つつじヶ丘公園 ・溝ノ口洞穴 ・大川原峡 ・桐原の滝 ・悠久の森
		<文化> ・弥五郎どん祭り ・奇習 鬼おい ・志布志お釈迦祭り ・流鏝馬
		<歴史> ・宇喜多公潜居跡 ・牛根埋没鳥居 ・お長屋 ・島津墓地 ・勝軍地蔵 ・大慈寺 ・宝満寺
		<食> ・カンパチ ・味処 海の桜勘 ・ちりめん ・ハモ ・うなぎ ・黒豚 ・黒牛 ・焼酎 ・ゆず
		<スポーツ> ・志布志運動公園人工芝サッカー場
		<観光施設> ・道の駅（たるみず、たるみずはまびら、たからべ、すえよし、おおすみ弥五郎伝説の里、松山）
		<体験> ・キャニオニング ・漁業体験 ・農業体験 ・森の駅たるみず ・マリンアクティビティ ・フォレストアドベンチャーおおすみ ・たからべ森の学校（学校跡地）
中部 エリア	鹿屋市 大崎町 東串良町	<自然> ・高隈山 ・神野中岳 ・くにの松原 ・柏原海岸
		<文化> ・柏原大相撲 ・鉤引き祭
		<歴史> ・唐仁古墳群 ・横瀬古墳 ・岡崎古墳群 ・鹿屋航空基地史料館 ・戦争遺跡（掩体壕、地下壕電信司令室跡等） ・吾平山上陵 ・荒平天神（菅原神社）
		<食> ・鹿屋アスリート食堂 ・みなと食堂 ・カンパチ ・焼酎 ・ナミクダヒゲエビ ・黒牛 ・黒豚 ・落花生
		<観光施設> ・かのやばら園 ・輝北天球館 ・道の駅くにの松原おおさき、野方あらさの ・あすばる大崎 ・浜田、高須海水浴場
		<イベント> ・かのやばら祭り ・ツール・ド・おおすみ ・かのやサイクルフェスティバル ・エアーメモリアル in かのや ・ルーピンまつり
		<スポーツ> ・国立大学法人 鹿屋体育大学 ・かのやグラウンド・ゴルフ場 ・ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅
		<体験> ・漁業体験 ・農業体験 ・ユクサおおすみ海の学校（学校跡地）

(別添) 様式 1

エリア	市町名	主な観光施設等
南部 エリア	錦江町 南大隅町 肝付町	<自然> ・本土最南端 佐多岬公園 ・雄川の滝 ・パノラマパーク西原台 ・神川大滝 ・花瀬自然公園 ・照葉樹の森 ・辺塚海岸 ・轟の滝
		<文化> ・佐多の御崎祭り ・流鏝馬
		<歴史> ・塚崎古墳群
		<食> ・えっがね(伊勢えび) ・辺塚だいたい ・焼酎
		<イベント> ・うちのうら銀河マラソン ・高山やぶさめ祭 ・ねじめドラゴンボートフェスティバル
		<宇宙関連> ・JAXA 内之浦宇宙空間観測所
		<体験> ・漁業体験 ・農業体験 ・ポタニカルファクトリー(学校跡地)

○観光施設

- ・日本最大級の規模を誇る「かのやばら園」
- ・特色ある運営を行う道の駅が地域内に多数存在する。

○自然

- ・手つかずの豊かな自然が残っているため、登山、トレッキング、キャニオニング等のアクティビティが充実しており、本格的なアウトドアを楽しむことができる。
- ・本土最南端の佐多岬周辺は亜熱帯植物が群生。全国で16箇所しかない「森林生物遺伝資源保存林」に指定され、学術的にも貴重とされている高隈山も、登山やトレイルランで注目されている。また、雄川の滝が人気を集め、来訪者が年間10万人を超えている。
- ・霧島錦江湾国立公園、日南海岸国立公園に指定されているエリアがあり、海岸線沿いに景勝地が広がる。

○スポーツ

- ・日本唯一の国立単科系体育大学である鹿屋体育大学を有し、その他の施設として大隅地域内に自転車競技場や各種競技に対応した施設も整備されている。また、2019年には陸上競技のトレーニングに特化したスポーツ合宿拠点施設が完成した。
- ・大隅地域は、関西圏の大学生を中心とするスポーツ合宿が大変盛んであり、鹿児島県内トップの実績を誇っている。
- ・しかしながら、スポーツと観光の市場の経済的優位性が確立されている分野はスポーツ合宿のみとなっており、現時点でのスポーツツーリズムへの投資の優先順位は低いものとなっている。
- ・プロサイクルチーム「シエルブルー鹿屋」や鹿屋体育大学自転車競技部、鹿児島県自転車競技場などもあり、サイクルツーリズムにも適した地域である。

○イベント

- ・海上自衛隊鹿屋航空基地における航空ショー「エアーメモリアル in かのや」
- ・大隅地域のロケーションの良いコースを走る自転車ロードレース、佐多岬やロケット発射場等の地域資源を活用したマラソン大会等、地域の特色を生かしたイベントが数多く実施されている。

(別添) 様式 1

○歴史

- ・古墳が数多く残り、武家屋敷群や島津家に縁のある史跡が残されている。
- ・太平洋戦争時に特攻隊員が日本で最も多く飛び立った地域であり、戦争遺跡（掩体壕、トーチカ跡等）が数多く残されている。平和学習ガイドや鹿屋航空基地史料館で平和について学ぶ機会を持つこともでき、平和教育（ピースツーリズム）にも適した地域である。
- ・大隅地域には、戦争遺跡や古墳・登山等の案内をするガイドが地域内で養成されており、観光客の受入を行っている。

○文化

- ・地域に根ざした地域の伝統的な祭りや伝統芸能が息づいており、地域で保存する取り組みが行われている。（奇習 鬼追い、弥五郎どんまつり、やぶさめ祭、佐多の御崎祭り、志布志お釈迦まつり、郷土芸能(棒踊り等)等）

○その他の観光資源

- ・日本初の人工衛星を打ち上げたロケット発射場「JAXA 内之浦宇宙空間観測所」があり、ロケット発射の見学、宇宙科学資料館の見学が可能である。
- ・本土最南端「佐多岬展望公園」の整備を進めており、2018 年度には展望所をはじめとする公園一体の整備が完了した。
- ・多様な釣り場スポットが地域内に多く存在し、佐多岬海域をはじめとし、多くの釣り人が訪れる。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

エリア	市町名	施設数	収容人数	施設規模等
北部	垂水市	11	523	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICE を含む団体客への対応は難しく、少人数への対応は可能。</li> <li>・ほとんどがビジネスホテルや民宿の形態であり、観光ホテルは少ない。</li> <li>・コロナ禍等により休業施設もある。</li> </ul>
	曾於市	10	222	
	志布志市	15	944	
	エリア計	36	1,689	
中部	鹿屋市	38	2,025	
	大崎町	4	373	
	東串良町	0	0	
	エリア計	42	2,398	
南部	錦江町	2	30	
	南大隅町	8	289	
	肝付町	10	635	
	エリア計	20	974	
合 計		98	5,061	

※キャンプ場（コテージ等）を除く

【利便性：区域までの交通、域内交通】

○区域までの交通（首都圏、中京圏、関西圏、九州北部地域）

<空 路>

- ・各方面と鹿児島空港を結ぶ航空路線（LCC を含む。）が、多数就航している。
- ・鹿児島空港から、大隅地域各地へ連絡バスが運行している。

区 間	所要時間
東京(羽田)～鹿児島空港	1 時間 55 分
東京(成田)～鹿児島空港	2 時間 10 分
名古屋～鹿児島空港	1 時間 20 分
大阪～鹿児島空港	1 時間 10 分

(別添) 様式 1

<新幹線>

- ・各方面と鹿児島中央駅を結ぶ九州新幹線が走行している。
- ・鹿児島中央駅から、大隅地域への直行バスが運行している。

区 間	所要時間
新大阪～鹿児島中央	3時間 44分
博多～鹿児島中央	1時間 17分

<航 路>

- ・「フェリーさんふらわあ」の大阪～志布志航路が就航。2018年度に新船が就航し、さらなる関西圏からの観光客の利用が期待されている。
- ・志布志港からは、大隅地域内の各地を結ぶバスが運行している。

区 間	所要時間
大阪～志布志港	15時間

- ・鹿児島市～鹿屋市の旅客不定期航路が2020年度に開設。  
(マリンポートかごしま～鹿屋港：高速船) 45分

<自動車利用(高速道路)>

- ・2014年12月に東九州自動車道が、大隅地域の中央部である鹿屋市まで延伸し、九州各地や九州以遠地域、鹿児島空港からのアクセスが向上している。
- ・2021年7月17日には、鹿屋串良 JCT から志布志 IC 間が開通し、域内アクセス向上による観光の活性化が期待される。(39分→19分)

区 間	所要時間
福岡 IC～鹿屋串良 JCT	3時間 30分
溝辺鹿児島空港 IC ～鹿屋串良 JCT	59分
鹿屋串良 JCT～志布志 IC	19分

- ・地域高規格道路「都城志布志道路」が全線開通(令和6年度予定)すると、九州縦貫自動車道や東九州自動車道と接続し、広域交流ネットワークの形成による観光の活性化が期待される。

<2次交通>

- ・鹿児島県内の交通要所からの連絡バスは運行しているものの、本数、ルートに課題があり、2次交通の整備が不十分である。
- ・鹿屋～福岡間の高速乗合バスが令和3年12月18日に就航(貨客混在方式)

<鹿児島県内の主要観光地及び宮崎県>

- ・鹿児島県の観光のゴールデンルート(鹿児島市、指宿市、霧島市)及び宮崎県と隣接しており、高速道路や航路、鉄道(JR日豊本線)の活用により、周遊ルートが確立されている。

区 間	交通手段	所要時間
宮崎 IC～鹿屋串良 JCT	自動車	1時間 22分
鹿児島 IC～鹿屋串良 JCT	自動車	1時間 15分
鴨池港(鹿児島市)～垂水港	フェリー	35分
鹿児島港～桜島港	フェリー	15分
山川港(指宿市)～根占港	フェリー	50分
マリンポートかごしま～鹿屋港	高速船	45分

○域内交通

- ・公共交通機関は路線バスが主な手段であり、地域内は自家用車やレンタカー利用者が多い。



(別添) 様式 1

【外国人観光客への対応】

- ・大隅観光ホームページや各種パンフレットの多言語化対応。
- ・海外からの修学旅行生等を受け入れており、漁業体験や民泊の提供を行っている。
- ・鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターにおいて、各国からの研修生、観光客の受入を行っており、同センターでは、日本文化（着物体験、茶道、華道等）を体験することができる。
- ・スポーツ庁や鹿屋体育大学等と連携した武道ツーリズムの可能性について検証する。
- ・マリポートかごしまや隣接する宮崎県日南市油津港に入港するクルーズ船の外国人観光客の大隅地域への周遊が、今後期待される。
- ・香港・台湾・韓国等と鹿児島空港との直行便があり、今後、鹿児島県を訪れる外国人観光客の増加が期待され、大隅地域への誘客にも注力する予定である。

※クルーズ船や航空国際便については、現在、休止中であるが、ウィズコロナ・アフターコロナを見越した情報収集を行う。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大隅地域の観光サイト「オスミツキ大隅国」のセッション数を月ごとに取得</li> <li>・鹿児島県観光連盟サイトから大隅エリア主要観光スポットのセッション数を月ごとに取得</li> </ul>
旅行消費額	地域内の経済波及効果を測定する。	大隅地域内の観光スポットや観光施設でアンケート調査を実施し、推計演算
延べ宿泊者数	事業成果の確認、地域内の経済波及効果を測定する。	鹿児島県観光統計調査を引用
来訪者満足度	マーケティングやブランディングに活用し、地域の受入体制を整備する。	大隅地域内の観光スポットや観光施設でアンケート調査を実施し、推計演算
リピーター率	マーケティングやブランディングに活用する。	大隅地域内の観光スポットや観光施設でアンケート調査を実施し、推計演算

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

大隅地域は、鹿児島県内でも高齢化率が高い自治体が存在するなど、少子高齢化の進行により国の推計よりも早く人口減少が進んでいる。

観光分野では、スポーツ合宿の受入は、県内でも高いシェアを占めているが、一方で、宿泊インフラや二次交通に乏しいため、入込客数や宿泊客数が他地域よりも少ない状況である。

このような中、高い経済波及効果や雇用創出効果が期待される観光は非常に重要なものになったことから、地域連携DMOである当社が、観光地域づくりの司令塔としての役割を果たすことで、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する地域経営を行い、新たな雇用の創出や交流・関係人口の増加につなげることとしている。

※第2期大隅エリア観光戦略を2021年度末に策定予定（計画年度：2022～2024年度）

## (2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p><b>強み (Strengths)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 錦江湾 (内海) や太平洋 (外海) に囲まれ、「雄川の滝」や「高隈山系」などの手つかずの自然が残っていること。</li> <li>○ 農業、畜産、漁業のいずれの一大産地であり、地の利を生かした新鮮な食材の宝庫であること。</li> <li>○ 本土最南端の「佐多岬」や日本に2ヶ所しかないロケット発射場「内之浦宇宙空間観測所」を有していること。</li> <li>○ マイクロツーリズム (近場観光) に適した立地であること。</li> <li>○ サイクリングやアウトドア、マリナクティビティなど体験型の観光ができること。</li> </ul>	<p><b>弱み (Weaknesses)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鹿児島県の交通の玄関口である鹿児島空港や鹿児島中央駅からの移動時間を要すること。</li> <li>○ 主要移動手段が車であり、2次交通が充実していないこと。</li> <li>○ 観光に対する地域の意識が低いこと。</li> <li>○ 情報発信を行うところが、バラバラであり、効果的なPRができず、認知不足となっていること。</li> <li>○ 個々のコンテンツは良いものがあるが、トータルコーディネーターやアテンドする人がいないこと。</li> <li>○ 日帰り旅行が多く、滞在型コンテンツが不足していること。</li> </ul>
外部環境	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マイクロツーリズム (近場観光) が脚光を浴びていること。</li> <li>○ コロナ禍を経験し、農村地域の持っている潜在価値が見直されていること。</li> <li>○ 「三密」を回避できるアウトドア体験やサイクリング、バイクツーリングなどのアドベンチャーツーリズムへの注目が高まっていること。</li> <li>○ SDGsの取り組みが世界的に広がっていること。</li> <li>○ 交通インフラ (東九州自動車道や都城志布志道路、錦江湾海上交通や福岡高速バス) が整備されつつあること。</li> </ul>	<p><b>脅威 (Threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くか見込めないこと。</li> <li>○ 国内観光客の基礎となる人口が減少していること。</li> <li>○ 渡航制限などによる訪日外国人客の回復が見込めないこと。</li> <li>○ 地域間での観光客の奪い合いになっていること。</li> </ul>

## (3) ターゲット

<p>○ 第1ターゲット層                      アウトドア好きな都市近郊 (女性)                      年代: 35~45 歳                      居住地域: 福岡県、熊本県、大阪府、兵庫県                      ※ コロナ禍において県をまたぐ移動が見込められないことから、当分の間、第1ターゲット層を県内在住者 (年齢・性別の区分なし) に変更</p>
<p>○ 選定の理由                      地域内資源や観光トレンドを分析した結果、以下の要件を満たすターゲットを選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県外の個人旅行者 (観光トレンド・市場規模・プロモーション効率・経済効果)</li> </ul>

(別添) 様式 1

- ・長時間の運転をいとわない人（立地的条件・九州域内自走者・2次交通としてレンタカー利用が望ましいこと）
- ・アウトドア活動や自然に興味があること（嗜好条件）
- ・ディスティネーションとの相性（重要供給バランス、自然系観光スポットとの相性）

○取組方針

- ・居住地での認知から旅行想起、旅行経験シェア（SNS等）に至る旅行者の行動等について、以下の年齢、性別等で効率的に訴求する。

◆訴求ディスティネーション

雄川の滝

◆大隅エリアでの想定消費

昼食、休憩、宿泊

◆訴求手法

WEB・旅行雑誌

◆想定グループサイズ平均

2.3人～2.6人（家族、カップル、グループ）

◆交通手段

自家用車、レンタカー、九州新幹線、フェリーさんふらわあ、LCC、垂水フェリー、桜島フェリー、高速船なんきゅう10号

- ・大隅観光戦略会議において、ターゲットを含む観光戦略が合意、共有されていることから、連携する地方公共団体や民間事業者が実施するプロモーション活動における優先順位を上げて実施する。

- ・大隅地域と隣接する地域と連携し周遊化を図り、隣接地域を訪れる旅行者のうち、大隅地域のターゲットと同一の旅行者に対して2次目的地として大隅を選択されるようなプロモーションを行い、大隅地域への誘客を図る。

○第2ターゲット層

香港からの訪日来訪者（男性・女性）

年代：30-40代

居住地域：香港

※コロナ禍において外国人観光客の移動が見込められないことから、当分の間、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた取り組みを行う

○選定の理由

香港在住者は、近年、訪日のレポート回数が最も高いことや、香港と鹿児島空港を結ぶ直行便が就航しており利便性が高いこと、日本国内におけるレンタカー利用率が高いことから、大隅来訪がしやすい環境といえる。

また、鹿児島県の外国人観光客の誘客施策についてもアジアをターゲットとしていることから、鹿児島県を訪れる外国人観光客の大隅来訪者の増加が見込めるため。

○取組方針

- ・居住地での認知から旅行想起、旅行経験シェア（SNS等）に至る旅行者の行動等について、以下の年齢、性別等で効率的に訴求する。

◆訴求ディスティネーション

雄川の滝

◆嗜好及び特徴

温泉、ラーメン、肉好き、アウトドア派、SNS愛好家



(別添) 様式 1

<p>◆訴求手法 WEB・旅行雑誌、県内旅行地からの取込</p> <p>◆想定グループサイズ平均 3.0人(グループ・家族)</p> <p>◆交通手段 LCC、九州新幹線、レンタカー、垂水フェリー、桜島フェリー、高速船なんきゅう10号</p> <p>・大隅観光戦略会議において、ターゲットを含む観光戦略が合意、共有されていることから、連携する地方公共団体や民間事業者が実施するプロモーション活動における優先順位を上げて実施する。</p> <p>・大隅地域と隣接する地域と連携し周遊化を図り、隣接地域を訪れる旅行者のうち、大隅地域のターゲットと同一の旅行者に対して2次目的地として大隅を選択されるようなプロモーションを行う。</p>
---

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	EVERGREEN OSUMI
②コンセプトの考え方	<p>マーケティング調査・分析結果から、マーケットが抱く大隅のイメージは、「森林」、「滝」、「海」が上位であり、このうち、大隅地域の地域資源との相関や、商材としての可能性が高く、大隅地域のイメージとして訴求の高いものは、「森林」、「滝」が効率的であると分析した。</p> <p>また、大隅地域固有の自然、景観、風土などの地域資源が「観光」と「自然」が共生する中で永続的に守り残されていくことを願い「エバーグリーン＝常緑、悠久の自然」を掲げ、地域内外にメッセージとして発信するとともに、今後の国際的なマーケットを視野にいれ、日本語表記ではなく、英語表記「EVERGREEN OSUMI」とした。</p>

## 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の大隅広域観光の指針となる「大隅広域観光の基本認識(2016年度策定)」の策定等にあたり、株式会社おおすみ観光未来会議の前身である任意組織の「おおすみ観光未来会議」において多様な関係者の意見を聴取するとともに、理念等を共有した。</li> <li>・ 株式会社おおすみ観光未来会議会員組織において、地域課題を把握・共有し、解決するための「エリア会議」の設置、エリア会議で提案された地域課題の解決策を具現化するための「エリア幹事会議」を設置。さらには行政と一体となった「大隅観光戦略会議」を設け、地域における観光課題のボトムアップと戦略共有がなされている。</li> <li>・ あわせて、地域の観光協会等の人材育成やおもてなしの質の向上のための研修等を実施し、関連事業者の業務支援を行う。</li> </ul>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社おおすみ観光未来会議の会員組織において、地域課題解決に向け、地域の観光サービスの評価や、課題把握を行うことにより、課題解決のための方策を協議する。</li> <li>・ 株式会社おおすみ観光未来会議が行うマーケティング調査のデータをフィードバックすることにより、市場ニーズを反映させたサービスの維持、向上を図る。</li> <li>・ 株式会社おおすみ観光未来会議にサクラクオリティ研修修了者を中心としたサービスの評価や、業務改善の助言等を行う体制を整え、大隅地域におけるサービス向上を図る。</li> <li>・ 飲食店や土産物店、物産館、宿泊施設等における大隅ならではの食の提供が行えるような研修や、専門家からのアドバイス事業等を行う。</li> <li>・ 地域の魅力を再認識する各種研修や各種事業への参画を通じたおもてなしの質の向上、地域内人材育成を行う。</li> </ul>
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大隅観光戦略会議」で合意・共有された戦略に基づき、株式会社おおすみ観光未来会議、会員組織会員、行政が一体的なプロモーションを行う仕組みが構築されている。</li> <li>・ 戦略に定めたターゲットに向けた情報発信を行うため、大隅観光戦略会議における多様な関係者との戦略の共有や、観光地経営への反映、検証を通じ、エリア内の一元的かつ効率的な情報発信・プロモーションを実施する。実施にあたっては、地域の状況を把握し、地域における取組の不足や重複等の調整を定期的に行う。</li> <li>・ 大隅の観光情報を提供するポータルサイトとして、大隅広域観光ホームページや SNS (Facebook・Instagram・Twitter) での情報発信を行っている。</li> </ul>

## 6. KPI (実績・目標)

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

### (1) 必須KPI

指標項目		2018	2019	2020	2021	2022	2023
		(H30) 年度	(R1) 年度	(R2) 年度	(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度
●旅行消費額 (円)	目標	7,200 ( )	7,200 ( )	10,500 ( )	10,500 ( )	10,500 ( )	10,500 ( )
	実績	13,187 ( )	10,019 ( )	7,165 ( )			
●延べ宿泊者数 (人)	目標	436,500 ( )	441,000 (6,000)	514,000 (600)	519,000 (1,200)	524,000 (7,300)	529,200 ( )
	実績	362,292 (5,518)	359,990 (7,516)	353,878 (2,107)			
●来訪者満足度 (%)	目標	50.0 ( )	55.0 ( )	62.0 ( )	64.0 ( )	64.0 ( )	64.0 ( )
	実績	42.9 ( )	62.0 ( )	88.0 ( )			
●リピーター率 (%)	目標	60.0 ( )	60.0 ( )	60.0 ( )	62.0 ( )	64.0 ( )	64.0 ( )
	実績	58.7 ( )	39.3 ( )	52.0 ( )			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

#### 【検討の経緯】

- ・「大隅広域観光の基本認識(2016年度策定)」の策定にあたり、2016年度マーケティング調査結果をもとに、2020年度までの目標値を設定。
- ・2018年度、2020年度に目標値の見直しを行い、大隅観光戦略会議において協議、決定を行った。

#### 【設定にあたっての考え方】

##### ●旅行消費額

2016年度マーケティング調査結果をもとに、2017年鹿児島県旅行消費額の数値を2018年度の目標値に設定。2020年度の目標値として対前年実績比約5%増加を設定し、2022年度まではその数値の維持を目指す。

##### ●延べ宿泊者数

見直し前の2017年度目標値(432,000人)をもとに、毎年1%の増加を設定。

##### ●来訪者満足度

2017年度で大きく下落した数値の回復を目指し、2020年度までに55%の満足度を達成するKPI設定を行った。また、2019年からは調査方法を見直し精度の向上を図った。

##### ●リピーター率

2018年度までに60%の目標を達成、2020年度までは維持する目標値を設定。2021年度以降は、5年間で10%増加する目標値を設定した。

## (2) その他の目標

指標項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
●観光HPセッション数 (件)	目標	15,000 ( )	85,000 ( )	94,000 ( )	103,000 ( )	113,000 ( )	123,000 ( )
	実績	15,969 ( )	54,409 ( )	84,000 ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )
●エリア内平均 訪問地点数 (箇所)	目標	1.60 ( )	1.80 ( )	2.00 ( )	2.00 ( )	2.00 ( )	2.00 ( )
	実績	1.60 ( )	1.26 ( )	1.45 ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

## 【検討の経緯】

- ・大隅広域観光の事業推進にあたり、プロモーション戦略等が適正であるか等について指標となると考えられる項目、目標値を設定。
- ・2018年度に指標項目、目標値の見直しを行い、ワンストップ窓口での手配件数（宿泊予約、一括手配等）、ワンストップ窓口での観光案内件数や、着地型体験メニュー参加者数の指標項目を、より経済効果に寄与する指標であると考えられるエリア内平均訪問地点数に見直しを行った。
- ・今後については、収集するデータの精度を上げ、KPIとなり得る指標を構築していく。

## 【設定にあたっての考え方】

## ●大隅観光ホームページ来訪者数

見直し前の2016年度目標値(64,000件)をもとに、毎年10%の増加を設定

ホームページの変更により2018年度の目標値を前年実績値の25%とし、2019年度以降は従来の目標値とした。

## ●エリア内訪問地点数

2016年度の数値をもとに2020年度までに2.0を達成する目標値を設定

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

### (1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内 訳
2018 (H30) 年度	38,585,517 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 26,270,169 円 【人材派遣に関する負担金】 7,596,967 円 【市町村等からの業務受託料】 4,453,200 円 【事業収入】 265,181 円 ※8月に法人設立したため8か月分の決算値(任意団体との分離のため決算値にその任意団体分は含まない)
2019 (R1) 年度	60,619,515 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 31,106,000 円 【市町村からの負担金】 12,703,723 円 【市町村等からの業務受託料】 2,108,000 円 【事業収入】(教育旅行手配業務手数料) 14,701,792 円
2020 (R2) 年度	41,718,959 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 21,643,000 円 【市町村からの負担金】 8,226,790 円 【市町村等からの業務委託料】 7,763,680 円 【事業収入】(教育旅行等手配業務手数料) 4,085,489 円
2021 (R3) 年度	57,380,000 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 22,480,000 円 【市町村からの負担金】 8,500,000 円 【市町村等からの業務委託料】 7,900,000 円 【観光庁事業】 15,000,000 円 【事業収入】(教育旅行等手配業務手数料) 3,500,000 円
2022 (R4) 年度	42,500,000 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 22,000,000 円 【市町村からの負担金】 8,500,000 円 【市町村等からの業務委託料】 5,000,000 円 【事業収入】(教育旅行等手配業務手数料) 7,000,000 円
2023 (R5) 年度	45,500,000 円	【広域行政観光団体からの業務受託料】 22,000,000 円 【市町村からの負担金】 8,500,000 円 【市町村等からの業務委託料】 5,000,000 円 【事業収入】(教育旅行等手配業務手数料) 10,000,000 円

### (2) 支出

年(年度)	総支出	内 訳
2018 (H30) 年度	37,621,883 円	【事業原価】マーケティング事業等 9,376,479 円 【販管費】 28,245,404 円 ・人件費 15,351,690 円 ・物件費 5,106,642 円 ・経費 7,787,072 円 ※8月に法人設立したため8か月分の決算値(任意団体との分離のため決算値にその任意団体分は含まない)

## (別添) 様式 1

2019 (R1) 年度	<b>61,335,999 円</b>	【事業原価】教育旅行手配原価等 【販管費】 ・人件費 ・物件費 ・経費	16,940,424 円 44,395,575 円 28,137,726 円 6,947,807 円 9,310,042 円
2020 (R2) 年度	<b>42,986,032 円</b>	【事業原価】教育旅行手配原価等 【販管費】 ・人件費 ・物件費 ・経費	5,327,365 円 37,658,667 円 20,911,304 円 5,990,928 円 10,756,435 円
2021 (R3) 年度	<b>57,026,000 円</b>	【事業原価】教育旅行手配原価等 【販管費】 ・人件費 ・物件費 ・経費	24,890,000 円 32,136,000 円 20,639,000 円 5,542,000 円 5,955,000 円
2022 (R4) 年度	<b>42,239,000 円</b>	【事業原価】教育旅行手配原価等 【販管費】 ・人件費 ・物件費 ・経費	10,000,000 円 32,239,000 円 20,639,000 円 5,600,000 円 6,000,000 円
2023 (R5) 年度	<b>45,239,000 円</b>	【事業原価】教育旅行手配原価等 【販管費】 ・人件費 ・物件費 ・経費	11,500,000 円 33,739,000 円 20,639,000 円 5,600,000 円 7,500,000 円

## (3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- 滞在型体験メニューや旅行商品の企画、造成による収入
- ワンストップ窓口での旅行商品の一括手配支援による収入（スポーツ合宿一括手配支援についても協議・検証を行う）
- 広域行政観光団体からの業務受託、各市町からの業務受託
- 積極的な DMO 関連事業へのチャレンジ

## 8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

### (市町村の意見)

鹿児島県鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町は、株式会社おおすみ観光未来会議を当該市町における地域連携DMOとして登録したいので、株式会社おおすみ観光未来会議とともに申請します。

### (鹿児島県の意見)

大隅地域全体の観光振興に資するものであり、地域間連携による広域観光の振興を推進するという本県の観光振興に関する施策の方向性とも合致するものであると認められます。

## 9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMOや地域DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)

区域の重複なし

## 10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	原 添 耕 作
担当部署名 (役職)	株式会社おおすみ観光未来会議 (チーフディレクター兼総務課長)
郵便番号	893-0007
所在地	鹿児島県鹿屋市北田町8番8号
電話番号 (直通)	0994-35-1266
F A X 番号	0994-35-1277
E - m a i l	info@oosumi-kankou.com k.harazoe@oosumi-kankou.com

## 11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	鹿児島県
担当者氏名	鹿 島 美 幸
担当部署名 (役職)	観光・文化スポーツ部 観光課 (主事)
郵便番号	893-8501
所在地	鹿児島県鹿児島市鴨池新町10番1号
電話番号 (直通)	099-286-3005
F A X 番号	099-286-5580
E - m a i l	kdukuri@pref.kagoshima.lg.jp

## (別添) 様式 1

都道府県・市町村名	鹿児島県鹿屋市
担当者氏名	西 郷 裕 也
担当部署名 (役職)	農林商工部 ふるさとPR課 (主任主事)
郵便番号	893-8501
所在地	鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号
電話番号 (直通)	0994-31-1121
F A X 番号	0994-40-8688
E - m a i l	yu. saigou@city. kanoya. lg. jp

都道府県・市町村名	鹿児島県垂水市
担当者氏名	谷 川 智 彦
担当部署名 (役職)	水産商工観光課 (主事)
郵便番号	891-2192
所在地	鹿児島県垂水市上町 114 番地
電話番号 (直通)	0994-32-1486
F A X 番号	0994-32-6625
E - m a i l	t_kankou@po. city. tarumizu. kagoshima. jp

都道府県・市町村名	鹿児島県曾於市
担当者氏名	大 迫 俊 博
担当部署名 (役職)	商工観光課 (係長)
郵便番号	899-8692
所在地	鹿児島県曾於市末吉町二之方 1980 番地 6
電話番号 (直通)	0986-76-8282
F A X 番号	0986-76-7285
E - m a i l	kezai01@city. soo. lg. jp

都道府県・市町村名	鹿児島県志布志市
担当者氏名	橋 川 真 悟
担当部署名 (役職)	港湾商工課 (主査)
郵便番号	899-7192
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志 2 丁目 1 番 1 号
電話番号 (直通)	099-472-1111
F A X 番号	099-473-2203
E - m a i l	kankou@city. shibushi. lg. jp



## (別添) 様式 1

都道府県・市町村名	鹿児島県曾於郡大崎町
担当者氏名	豊 住 文
担当部署名 (役職)	企画調整課(主事)
郵便番号	899-7305
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町仮宿 1029 番地
電話番号 (直通)	099-476-1111
F A X 番号	099-476-3979
E - m a i l	mati@town.kagoshima-osaki.lg.jp

都道府県・市町村名	鹿児島県肝属郡東串良町
担当者氏名	畠 中 輝 久
担当部署名 (役職)	企画課(課長補佐)
郵便番号	893-1693
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町川西 1543 番地
電話番号 (直通)	0994-63-3122
F A X 番号	0994-63-3138
E - m a i l	kikaku@higashikushira.com

都道府県・市町村名	鹿児島県肝属郡錦江町
担当者氏名	壹 岐 英 星
担当部署名 (役職)	観光交流課(主査)
郵便番号	893-2392
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町田代麓 827 番地 1
電話番号 (直通)	0994-25-2511
F A X 番号	0994-25-2668
E - m a i l	eisei_iki@town.kinko.lg.jp

都道府県・市町村名	鹿児島県肝属郡南大隅町
担当者氏名	黒 瀬 謙 太
担当部署名 (役職)	商工観光課(主査)
郵便番号	893-2501
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北 226 番地
電話番号 (直通)	0994-24-3115
F A X 番号	0994-24-3119
E - m a i l	kanko@town.minamiosumi.lg.jp

(別添) 様式 1

都道府県・市町村名	鹿児島県肝属郡肝付町
担当者氏名	磯 俣 圭 一
担当部署名 (役職)	産業創出課(係長)
郵便番号	893-1402
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町南方 2643 番地
電話番号 (直通)	0994-67-2116
F A X 番号	0994-67-2488
E - m a i l	syoukou@town.kimotsuki.lg.jp

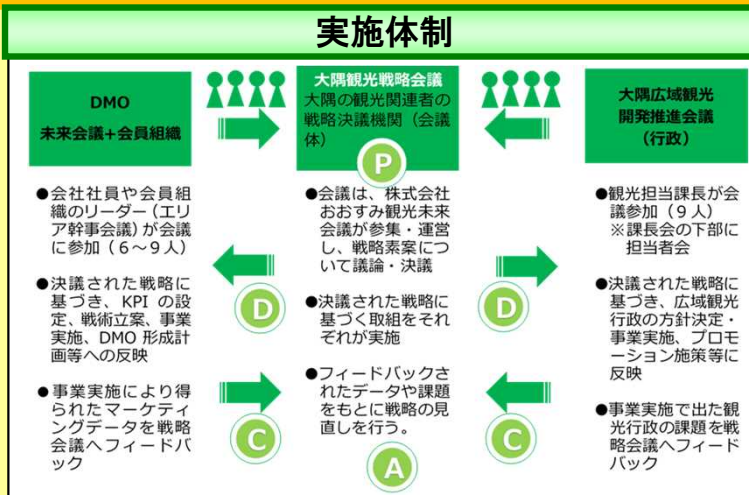
法人名：株式会社おおすみ観光未来会議  
登録区分名：地域連携DMO

# EVERGREEN OSUMI

記入日：令和4年1月17日

【区域】 鹿児島県鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町  
 【設立日】 平成28(2016)年4月1日 準備組織設立  
 平成30(2018)年8月1日 株式会社設立  
 【登録日】 平成31(2019)年3月29日  
 【代表者】 代表取締役 山下 建一  
 【マーケティング責任者(CMO)】 堂地 恵利子  
 【財務責任者(CFO)】 原添 耕作  
 【職員数】 7人  
 (常勤6人(正職員3人、出向等3人)、非常勤1人)  
 【連携する主な事業者】  
 宿泊施設、飲食店、物産館、交通事業者、旅行会社、  
 商工業者、農林漁業者、マスコミ、観光協会、商工会、  
 行政等

・株主：41者 ・会員組織会員数：85者



### マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】

- ・佐多岬
- ・雄川の滝
- ・かのやばら園
- ・戦争遺跡
- ・垂水千本イチョウ園
- ・溝ノ口洞穴
- ・豊かな第一次産品(牛・豚・カンパチ等)など

大隅半島4市5町

### 合意形成の仕組み

【該当する登録要件】 (該当番号②)  
 【概要】  
 商工業者や交通事業者など幅広いメンバーが参画する会員組織(エリア会議・エリア幹事会議)により、会員の連携や課題解決のためのプロジェクトに関する協議、大隅地域の観光戦略の共有等を図るほか、大隅半島4市5町の行政の観光窓口である「大隅広域観光開発推進会議」などとの事業連携等を図りながら、それらの代表者による「大隅観光戦略会議」により事業の進捗状況の確認、評価・改善を図っている。

### 法人のこれまでの活動実績

【情報発信・プロモーション】

- ・サイクルユースター招へい・情報発信事業
- ・各種広報媒体を用いたプロモーションの実施
- ・各イベントでの物販・PR活動
- ・ホームページ、Facebook、Instagram、Twitterによる情報発信

【観光資源の磨き上げ】

- ・クルーズ船観光客誘致に向けた各種取組
- ・「大隅の新しい旅行スタイル戦略構築事業」
- ・大隅地域「体験・滞在型コンテンツ」レベルアップ事業
- ・アドベンチャーツーリズムの構築

【受入環境の整備】

- ・大隅地域の資源を活かした観光商品の造成
- ・鹿児島湾を結ぶ旅客不定期航路開設協力
- ・サイクルツーリズムの拡大に向けた取組

### 戦略

【主なターゲット】

- (国内) アウトドア好きな都市近郊女性 35~45歳  
 居住地域：福岡、熊本、大阪、兵庫  
 ※当分の間、県内在住者(年齢・性別の区分なし)に変更
- (国外) 香港からの訪日訪来者(男女) 30~40歳代  
 ※当分の間、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた取り組みを行う

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】  
 連携する地方公共団体や民間事業者が実施するプロモーション活動における優先順位を上げて実施する。  
 ※令和4(2022)年3月  
 第2期大隅エリア観光戦略(2022~2024)策定予定

### 観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

- ・会員組織における各会議により、会員の連携や大隅地域の課題解決のためのプロジェクトに関する協議、大隅地域の観光戦略の共有、その他の情報共有等を図っている。  
 (エリア会議・エリア幹事会議)  
 大隅地域を3つのエリアに分け、エリア幹事を中心に地域課題の共有等を行っている。
- ・エリア内の一元的かつ効率的な情報発信・プロモーションを行うため、大隅広域観光ホームページやSNS(Facebook・Instagram・Twitter)での情報発信を行っている。

### KPI(実績・目標)

※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度
旅行消費額(円)	目標	7,200	7,200	10,500	10,500	10,500
	実績	( )	( )	( )	( )	( )
延べ宿泊者数(人)	目標	436,500	441,000	514,000	519,000	524,000
	実績	362,292 (5,518)	359,990 (7,516)	353,878 (2,107)	( )	( )
来訪者満足度(%)	目標	50.0	55.0	62.0	64.0	64.0
	実績	42.9	62.0	88.0	( )	( )
リピーター率(%)	目標	60.0	60.0	60.0	62.0	64.0
	実績	58.7	39.3	52.0	( )	( )

### 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【総収入】 41,719千円(行政観光団体からの業務受託、市町負担金、事業収入)  
 【総支出】 42,336千円(事業原価、販管費)  
 ※2021年第3期決算  
 【自立的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】  
 行政及び行政観光団体からの業務委託により、地域の「稼ぐ力を引き出す」・「観光地経営」の視点に立った各種事業を継続的に行うとともに、自立的活動に向けた運営資金確保として、地域の実情に応じた着地型旅行商品の造成や教育旅行受入などによるランドオペレーター事業に取り組む。